

国際援助団体「フォスタープラン」設立60年

# 道内2200人 広がる支援

援助者として手紙などで交流する仕組みで知られる国際援助団体「フォスタープラン」(本部・英国)が今年、創設六十周年を迎えた。全世界で約八十八万人、道内でも約二千二百人と支援者の輪を広げている。当初の戦災孤児の救済から、発展途上国の生活向上をめざす地域開発プロジェクトへと活動内容も広がった。援助を受ける側も受け身ではなく自発的に利用を考える支援方法を取っている。草の根レベルの小回りのきく国際援助としても注目されている。

同プランはスペイン内戦で戦災孤児となった子どもたち

に食糧や教育の支援をしようとして一九三七年、イギリスのジャーナリストが始めた活動が発端。「フォスター」とは英語で「養育する」という意味。五十年代から途上国の貧困地域の子どもたちへの援助に変わっていった。

日本では支援者は子ども一人につき一月五千円を財団法人「日本フォスター・プラン協会」に振り込む。個人だけでなく、会社や友人同士などグループ単位でもよい。支援する子どもの地域や性別は指定することもできる。子どもからは年に一回、手紙や絵

も送られてくる。現地のボランティアが作った成長記録も送られてくる。日本全体では九十七年九月末現在で六万一千七百七十七人、道内で二千二百八十九人が子どもを支援する「フォスター・ベアレント」になっている。世界的に日本は援助額で二位、ベアレント数で四位。援助額、ベアレント数ともにトップだ。

## 月5千円振り込み／途上国の生活向上資金に

「国際教育提携」と紹介されることも多いが、同プランでは援助金は直接、子どもに渡ることはない。「お金が親の酒などの代金に消えることも援助を受ける子どもも家族が地域から遠ざかることを避けるため」と同協会広報室の奈良崎文乃さんは説明する。援助金は日本の事務所経費を除いて英国の本部に送られ、その子どもが住む地域全

### フォスタープランニュース 37

#### 収入増加が子どもを救う



収入増加が子どもを救う  
「フォスター・ベアレント」は「発展途上国」をめぐり

発展途上国の子どもたちの援助を呼びかける「フォスタープラン」のパンフレット

体の自立を考えたプロジェクトの資金として使われる。学校建設のほか、井戸掘り、上下水道の整備、予防接種、職業訓練など地域の実情に合わせたさまざまなプロジェクトがある。

その結果、身近にある材料

すので公平な提案しかできません」とマナタールさんは参加型援助の特長を話す。

その結果、身近にある材料

をもちかえられた」といふ。

札幌市内の建設コンサルタント会社「エーティック」は創立二十周年の記念で社として「ベアレント」になった。

会員有志でつくる「札幌フォスター・ベアレントの会」の世話人、西崎いづみさんは「日本で飲食費一回分くらいでも途上国では大きな節儉になる。寄付という形のボランティアもお金を出さずから、其の修理代などにあてる。」「自ティオも考えてみてほしい」と呼びかけている。

問い合わせは日本フォスタープラン協会03・5481・6100へ。



「自発的な事業なので援助を受ける側も真剣になる」と話すマナタールさん

現在、北大に留学中のマナタ・マナタールさん(28)は三年前、母国ネパールで農村技術センター研究員として、フォスター・プランの地域援助プロジェクトに参加した。地域援助では最初とどんなプロジェクトをするのかを決めるため地区ごと村の人に集まってもらい意見を聞く。「女性の視点を入れるために一世帯から男女一人ずつ参加したと村長とか特定の人の利益ばかりが優先されますが、この方法だとみんなの前で話